

精鋭たちの箱根駅伝

Vol. 5

東京箱根間往復大学駅伝競走（以下、箱根駅伝）の歴史は古く、1920年開催の第1回「四大校駅伝競走」に始まります。ここに、早稲田・慶應義塾・明治・東京高等師範学校（現筑波大学）の4校が出場した第1回大会を契機として、箱根駅伝の栄光の歴史が幕を開けました。その背景には、日本のマラソンの父として知られる^{かなぐりしそ}金栗四三の「世界に通用するランナーを育成したい」との強い願望がありました。

さて、中央大学の出場は1921年の第2回大会より始まり、初出場は出場7校中、総合7位の成績に終わりました。しかし、1926年の第7回大会では初の総合優勝の栄冠に輝きます。その後の本学の戦績に目を向けると、総合優勝14回、出場合計98回（連続出場87回）、6年連続総合優勝（1959～1964年）と輝かしい戦績を収めており、これらの記録は現在も破られていません。

一方、本学は32年振りに総合優勝を果たした1996年の第72回大会以来、総合優勝の栄冠に届いてはいません。また、第93回大会（2017年）では予選通過ならず、本戦への連続出場記録が途切れたことも記憶に残ります。しかし、近年は着実に力をつけ、本戦での成績も、第99回大会（2023

年）の総合2位、第101回大会（2025年）の総合5位の結果となりました。この成績は、未来へ向けての希望の灯ともなりましょう。

箱根での本戦を控え、本学は2025年10月13日（月・祝）開催の第37回出雲駅伝（出雲全日本大学選抜駅伝競走）では10位、一方、2025年11月2日（日）の秩父宮賜杯 第57回全日本大学駅伝対校選手権大会では2位という好成績を得ました。

第102回大会は1月2日（金）・3日（土）に開催されます。栄光の「Cマーク」を胸に、新春の箱根路に躍動する精鋭たちの好走に期待しましょう。読者各位のなお一層の応援をお願いいたします。

[資料館事務室]



第72回箱根駅伝総合優勝報告会（1996年1月11日）



第72回箱根駅伝総合優勝報告会（1996年1月11日）



褌（第72回総合優勝時）



第72回総合優勝トロフィー